

## 平成24年度 米子西高等学校 第三者評価 評価書

### 【講評】

学校長は、普通科進学校として質の高い授業と親身な指導を通して、進路実現に必要な学力をつけるとともに、地域社会の多様なニーズに応え、郷土に貢献する「知・徳・体・志」のバランスのとれた人材を育成することを教育方針とし、学校経営ビジョンとして「知・徳・体・志」を追求する学校像を示している。そして教育目標の実現に向けて、教職員の学校経営ビジョンの共有化や学校経営への参画による学校運営組織の活性化に力を注いでいる。教職員は熱意をもって親身な指導に努めており、分かる授業・やる気にさせる質の高い授業をめざして計画的に校内研究授業や県外教員との授業研究にも取り組んでいる。生徒の活動も活発で、生徒と保護者による2000人壁画や、文化부가統一テーマのもとで行う総合芸術祭「翠燦く」は特徴的な活動である。部活動は運動部、文化部とも盛んで、活動は本校独自の「部活動シラバス」に基づいて活動し優秀な成績を上げている。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 教職員は熱意をもって分かる授業・やる気にさせる授業をめざし、年2回授業公開での研究授業及び合評会、県外教員との授業実践研究交流事業の取り組みなど、授業力向上に努めている。また、生徒の学習内容の定着と家庭学習の習慣化、学習サイクルの確立の指導に力を注いでいる。
- ② ホームルーム活動の指導計画は各内容項目を踏まえており、教職員は親身な指導により学級経営における望ましい人間関係の育成や学習環境づくりに取り組んでいる。
- ③ 総合的な学習の時間は、キャリア教育計画に基づき3年間を見通した進路について考察する学習活動であり、積極的に地域人材や高大連携で大学教員の活用を図っている。
- ④ 学校図書館運営は、学校図書館運営計画に基づき読書センター及び学習・情報センターとしての機能を活かした創意工夫された学校図書館活動を推進している。
- ⑤ 学校評価システムは整備され、教職員は分掌・学年・教科の評価項目設定と評価活動に参画している。生徒の教科別授業評価は学期毎に実施し、各教科担当者は授業改善の課題と改善策、今後の取り組みについて報告書を提出し、全体でまとめている。また、生徒、保護者とも学校評価アンケートを学期毎に実施し、学校自己評価の基準資料として活用している。
- ⑥ 学校に関する情報公開では、学校の教育活動や生徒の活動等をPTA会報や学年便りなどで保護者に届けるとともに、マスメディア等にも積極的に情報発信している。また、学校ホームページの情報発信内容、活用は創意工夫ある積極的な取り組みである。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 生徒指導は組織的な指導体制で問題行動や遅刻者対策、交通安全指導等の生活指導を主とした治療的な生徒指導である。生徒指導は教育課程の内外にわたって働く機能としての教育活動であり、開発的、予防的そして治療的な生徒指導を内容とする生徒指導全体計画の策定が必要である。
- ② 学校図書館経営は評価できる取り組みであるが、学校運営組織としての学校図書館運営委員会及びメディア選定委員会の設置が必要である。また、学校図書館を全校的機関として分掌組織への位置づけが求められる。
- ③ 現行の組織運営における分掌・学年・教科の主任の業務や責任体制は明確であるが、運営組織における主幹教諭の役割とその位置づけ、そして特別活動と総合的な学習の時間の主任を明確にした校務運営組織・分掌の見直しが求められる。
- ④ 重点目標と整合性ある評価項目の設定、そして当該分掌・学年の評価項目との整合性を図り、学校ビジョン具体化に向けてその道筋が見えやすい評価項目を設定することが必要である。